

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
都市システム系事務室内
令和4年8月

第36号

会長挨拶

建設会会長
大西 博
昭和五十二年卒



立命館大学建設会の会員の皆様には、ますますご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年十月の建設会第二十一回総会（書面開催）においてご承認をいただき、中谷会長から受継ぎ会長となりました。私は、四十五年前の一九七六年度土木工学科の卒業です。卒業研究は山田淳先生にお世話になり「水需要予測」でしたが、三十六年間国土交通省（建設省）で「道路行政」を担当して退官し、現在、建設コンサルタントの（株）建設技術研究所に勤めて九年になります。微力ではございますが、本会の活動に尽力してまいりますのでご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。さて、建設会の活動は、支部及

コロナ禍が学系にもたらしたもの

都市システム学系 学系長

里深 好文



二〇二二年度の学系長を務めています。環境都市工学科の里深です。建設会会員の皆様には日ごろから都市システム系の教学や同窓会の活動にご協力・ご支援いただいておりますこと、心より御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の大波もようやく下火になりつつあり、希望的観測ではあります

れから始まったコロナ禍は、二年半以上の長きにわたり、各支部のお集まりも差し控えたり、オンライン開催になったりと、対面での交流が出来なくなっており、振り返りますと、建設会総会も、二〇二〇年に開催の予定でしたが、開催メドが立たず、やむを得ず臨時総会（第二十回・書面審議）にて規約を改正し、役員任期を延長したものの、ご案内の通り、コロナ禍は収まらず、昨年二〇二一年第二十一回総会も書面開催となった次第です。次回第二十二回総会は、来年二〇二三年に是非とも対面で開催できること、そして感染対策をしつつ、順次各支部の会合が持てるように、心から祈っているところです。

この三月には、オンラインで開催された環境都市工学科及び建築都市デザイン学科の卒業記念パーティに参加しました。活気あふれる皆さんの様子が画面に溢れ、社会にあるいは研究に向かわれる熱気を頼もしく感じた次第です。建設会の会員、諸先輩も引き続き、現役学生の学びや就職活動をサポートする様々な取り組みをよろしくお祈り致します。

ポートする様々な取り組みをよろしくお祈り致します。皆様も、国土、まち、建物、橋などを「建設」する事について夢があつて学部を目指された事とあります。私も小学校の頃、生まれた田舎を便利にする「夢」がありました。今から考えれば、大学を目指したときも、国土を便利にする「夢」があり、土木工学を選びました。もちろん、大学の学びで単位をとることも、「夢」の実現も簡単でないことがわかりましたが、建設省に入って、関わった各地で「道路」で便利にする「夢」は実現できました。道路の開通式での皆さんの笑顔が「夢」がかなった瞬間でした。今も建設コンサルタン卜協会近畿支部での研究で、関西や西日本の未来社会の「夢」を見えています。

建設行政・業界の諸先輩方のご努力により、我が国も、生まれた田舎も、ずいぶん安全で便利で豊かになりました。新幹線や高速道路の延長が伸び、長距離移動や高速バスの利便などが格段に良くなっています。国土計画が全国総生生活を取り戻すためであるとしたら、あまり喜んでばかりはいられないのかもしれない。

会員の声

京都のインフラ整備・管理



京都建設会副会長
石原敏彦
昭和五十六年卒

昭和五十六年卒業の石原敏彦でございます。理工学部土木工学科を卒業後、すぐに京都市役所に勤務し、道路、河川、公園の設計、監督、維持管理や都市計画、開発指導だけでなく、全国都市緑化京都フェアの開催、京都高速道路の建設、最後は区役所勤務まで、色々な業務に携わり、その都度多くの方々に助けられ、三十八年間の役所生活を無事に終えることができました。

確かに市役所に入って間もない時に、先輩のお誘いがあり立命館大学建設会に入会しました。以後、京都タワーホテルにおいて(衣笠キャンパスやびわこ・くさつキャンパスでも開かれた)、隔年行われる建設会の総会やその間に行われる京都支部(現京都建設会)の総会での、講演を聴いたり、懐かしいお顔を拝見できるのが楽しみでした。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催されないのが残念です。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響は、京都市役所を退職後勤めています一般財団法人京都市都市整備公社においても、大変厳しいものがあります。公社は昭和四十三年に設立され、京都市内の観光駐車場の管理や駐車場・駐輪場の整備運営を委託し、京都市の道路交通行政の一端を担う公的団体として、土地区画整理事業、排水機場の管理、レンタサイクル・シェアサイクル事業など

も展開してまいりました。公社設立五十年が過ぎ、令和元年度から京都市の外郭団体という位置づけを解消し、自立化した公社として大阪府を含む関西圏にもコインパーキング等の事業域を広げている最中に、新型コロナウィルス感染症の拡大により、緊急事態宣言が発令されるなど、京都におきましても観光客の激減や外出抑制の影響により、駐車場運営等において厳しい経営状況が続いています。

ただ、今年度に入り三年ぶりに規制のない花見シーズンやゴールデンウィークがあり、国内観光客も増えてきましたし、六月十日からは、外国人観光客の受け入れも再開されるなど、明るい兆しが見えてきました。今後この流れが続く、新型コロナウィルスの影響のない暮らしが戻ってくることを願っています。

私はこれからも、立命館大学で学んだ知識や京都市役所での経験を生かして、公社において都市インフラの整備・管理を通して、観光振興・交通の円滑化・環境保全・都市緑化・地域活性化や景観も含めた都市格の向上や住みよいまちづくりを意識した取り組みを進めていきたいと考えています。



建立会
桑田昌季
昭和五十七年卒

人との出会いを大切に

人との出会いについて。我々仕事上で多くの方との出会いがあります。出会う相手は、敵、味方、ライバル、同志等様々です。

私は、大学卒業後、建設会社に入社、社内では比較的大きな規模の現場に配属され一年目から社内外や協力会社等多くの方と仕事をする機会に恵まれました。

多くの方と出会ったお陰でなかには今でも交流があり、私の財産の一つとなっております。その後も「羽田の沖合展開事業」や「神戸の震災復興事業」等プロジェクトに携わる

ことができ更に多くの方との出会いに巡り合えたことは幸いだったと思います。

出会いに関して、大学入学後のオリエンテーションにおいて「ここにいる同級生は、損得のない関係の集まりであり将来にわたっての財産となるであろう。この四年間で多くの仲間を作りなさい」との言葉を頂いていました。

当時は、特に意識せず記憶に残っている程度でした。この言葉の重みを理解できたのは約二十年の工事部門を経て、営業部門へと異動してからです。

和歌山営業所に配属。従来の営業形態から大きく変化しつつある業界のなか、営業とは何か、右も左もまったく分からぬ営業一年生として模索する状況でした。営業は、モノづくりの現場と違い、雲をつかむような日々が続く孤独感にさいなまれていました。そこで、救世主となつたのは同窓会組織です。まずは、「和歌山建設会」に誘われ、県内の先輩方との交流を深めることができ、その後、「立命館(関西)の土木営業マンの親睦会」、「建立会」への参加により営業の第一歩を踏み出すことができました。人脈も増え、多くの方々からの指導、アドバイス等を頂くことにより、物事を大きな視野で眺めることも学び、なんとか建設会社の営業マンと呼ばれる程度にはなることができました。

私にとって成長の糧になったのは、「建立会」をはじめとした同窓会組織であり今後の人生においても大切な財産であると思っています。

現在の建設業のおかれている状況は、建設業といった業種の枠にとどまらず、業種を超えた資本・業務提携、あるいは業界再編へと進んでいます。また、ひとつの事業を遂行するために企業同士、企業と大学、企業と個人など様々な「コンソーシアム」を組む時代になっております。

この様な時代を生き抜くには、同窓会組織の連携、結束の重要性が不可欠と感じます。

毛利元就の三本の矢ではないですが、個人では無力でも、仲間の応援・支援があれば強くなれます。会員相互が、結束を強化し、皆で大きな成功といった果実をつかみ取りましょう。

若い世代の方も、「建立会」をはじめとした同窓会組織の活動に積極的に参加していただきたいと思っています。

身近では、卒研(材料系)の仲間たちとは、卒業以来毎年集まり様々な話に花を咲かせています。今では、健康の話や子、孫の話が多くなつてきております。我々卒研の仲間たちも「建立会」等の発展に微力ながら尽力していきたいと思っております。

最後に、技術的な内容は一切なくして申し訳ございませんでした。

振り返れば



岐阜県建設会
高井昭洋
昭和六十年卒

私は昭和六十年三月に立命館大学理工学部土木工学科を卒業して地元建設会社に入社し今に至ります。地元建設会社に入ったわりには転勤等が多く、結婚してからも半分以上は単身赴任の生活で家族には迷惑をかけたきたと思います。

私自身としては転勤先での新しい人との出会いがあり現在では自分の財産であると思います。新しい土地での生活は大変なところもあります。住んでみないと分からないことも多々あり面白く、新鮮な刺激を楽しんでました。

さて、大学時代の話となりますが、当時はまだ大学も京都市内にあり、石を投げると学生に当たると言われるほど学生が多かったです。移動の手段は原付で学校やバイトに行くのに私も使っていました。今のようにヘルメットを被らなくてもよい時代で京都市内を沢山の原付が走っていたのを思い出します。

下宿先は右京区大森自動車教習所の近くのアパートに住んでおり風呂もなく共同トイレだったのを覚えています。今の時代では考えられませんが、当時は普通だったと思います。銭湯へ行くのも金銭的都合もあり二日に一回程度でした。電話についても階ごとにピンク電話が一台設置されていて掛かっていたら誰かが出て取次ぐスタイルでした。現在の携帯電話が当たり前の時代に育った学生には理解できないかもしれませ

還暦を迎えて感じていること



関東建設会
中野剛宏
昭和六十一年卒

昭和六十一年卒で現在関東建設会の幹事を務めております中野です。今年の五月に還暦を迎え、また、立命館大学建設会から投稿の機会をいただきましたので、自身の振り返りと今感じていることを素直に綴りたいと思います。

私は、昭和六十一年四月に和歌山県の建設会社に入社しました。入社五年後にその建設会社の東京支店が分裂し、その時配属されていた営業所が別会社になることになりました。これが私の転職一回目になりました。このころ関東建設会や神奈川県校友会に参加するようになりました。

転職した会社が十二年後に民事再生法による再建することになり、私も最後まで再建に取り組みしましたが廃業することになりました。会社を廃業する前あちらこちらに営業に出かけていました。その時、関東建設会の米谷様(現関東建設会会長)から設計業務の案件を頂き何回か会社を訪問していただきました。その帰り道の途中で友人が勤めている会社があり、ついでに営業が立ち寄りし

ていました。会社廃業後の友人から「うちの会社に来ないか？」と誘いを受け、転職二回目となりました。

三社目の会社は新興の総合デベロッパーであり、今まで勤めていた会社と異なる業態なので戸惑もありましたが、入ってみると楽しくできるものだと喜んで勤務してまいりました。しかしながら、この会社も入社三年後に民事再生法による再建することになりました。この時は、自分の会社が民事再生法の手続きを始めた事実を家のテレビで見て大変驚きを取って全く知らされておりました。次の日から民事再生法の処理がはじまりました。早速、当社側の弁護士から当社が販売した分譲マンション販売後の未解決案件の解決(管理組合との和解)を任されて対応することになりました。この仕事は出来れば避けて通りたい仕事ですが、私は前の会社で民事再生法の手続きを役員として対応したこともあり、弁護士から白羽の矢が立ったのかもしれないと。何でも経験していれば役に立つときがあるものだと感じました。その対応中以前の会社の元上司が私の勤めている会社の民事再生法の事を知り、誘ってくれたので右記の仕事をして解決し転職三回目となりました。

四社目はエンジニアリング会社で、また業態が変わり慣れない業務を行わなければならなくなりました。しかし、建設会社時代の経験を生かせる業務が多く慣れれば仕事が楽しくなりました。何事も楽しく思った者の勝ただと思えます。この会社ではなかなかできない経験ができました。その中でも印象に残っているのは、三・一一の地震で親会社の千葉製油所の球形タンクが火災・爆発を起しその復旧工事の責任者として対応した事です。行政・消防に申請書を提出しに行くとき必ず嫌な顔をされ、毎日の様に出向きましたがなかなか復旧工事の許可を下ろしてもらえませんでした。その工事も一年で何とか軌道に乗せ余裕をもって業務を進められると喜んでいました。しかし、親会社が風力発電事業社を買収しその業務に就くことになりました。風力発電事業では土木建築関係の工事の他、用地関係の調整業務があり不動産業の経験が役に立ち、この時

ていました。会社廃業後の友人から「うちの会社に来ないか？」と誘いを受け、転職二回目となりました。

も過去の経験が何時役に立つかわからないものだと思います。風力発電の最初のサイトの建設工事を軌道に乗せ次期中期計画(五年)を作成した時点で異動を命じられ、千葉の消防火設備他の建設工事の土建責任者に任命され、その後、立て続けに強靱化工事、リクスサーベイ対応工事と忙しい工事が続き、なかなか楽は出来ないものだと思います。

本社に戻り三年目の先月定年退職を迎え、シニア社員となり四回目の転職(業務内容役職は変更無しですが給料は変更します)になります。さて、還暦を迎えて感じていることですが、私の人生はピンチの連続であったこと、またピンチには必ず助けてくれた恩人がいたことに感謝しています。先ず思い出すのは、二番目の会社で民事再生法の後の対応をしていたころ、関東建設会の米谷会長が案件を紹介してくれたことです。この時は案件を受注することはできませんでしたが、次の会社に転職する機会になりました。現在勤めているエンジニアリング会社では、関東建設会の皆様から業務を進める上で多大なる協力を頂き、私が社内の立場を有利に立ち回ることができています。

私の経験から建設会や校友会に参加し将来恩人になるかもしれない方々と知り合うことは、現役の皆様が人生の保険になるような気がしています。皆様がたくさん参加し保険の輪が大きくなることを期待しています。神奈川県校友会元会長の田中様(故人)が立命館大学の校友会の組織は慶応大学の三田会を目標として並ぶくらいに成長させたいと生前に話されていたので長い道のりだと思いますが皆様と共に盛り上げたいと思っています。

最後に、この機会を与えていただきました立命館大学建設会に感謝しております。ありがとうございました。

技術革新随想



広島県支部代表幹事 福馬啓人 昭和六十一年卒

昨夜まで、山口県周南市の社員寮

に十ヶ月単身赴任してしまいました。そこは山陽新幹線から一〇八mの場所、周囲は二階建てから三階建てくらいの民家やビルが点在する程度の、日本のどこにもあるような郊外の風景です。

住み始めて随分経ったある夜、ふと新幹線の通過音が聞こえていることに気づきました。何かしているの、聞こえていても、特に意識しない程度の、鋭く風を切る音です。

子供の頃、滋賀県に住んでいた私は、ある夜、遙か遠くで「ゴー」という轟音がするのに気づき、それが新幹線の走行音だと知って、「新幹線はすごい!」と思っていました。新幹線の線路なんて、子供の私にはとても遠く遠くあり、直接見に行く気にもならないほど向こうなのですから。今測ると、四・三kmです!

それがたったの一〇八mの場所、当時より高速な新幹線が、さしたる防音設備も無しに、窓を開けていてもテレビの音が消されない程度の音で走行するなんて……

パソコンも電話もすべしけれど、鉄道技術など我々の比較的身近な技術分野の技術革新は、本当に凄まじい感があります。私の会社の引退したOBの言葉を借りれば、「お前達、いつまでコンクリート打ってんだよ! いい加減に進歩できんのか!」と、たぶん自戒を込めて言われていたのだと思います。確かに、九十年前に出来たとされ、二千年前のローマで普及し始めたと言われるコンクリートを今だに……

いや、コンクリートも土も水も土木の基幹技術で、それぞれに相当なマニアックなドラステックな技術革新が起こっているんです! 「そんなこと言ってるから世間に受けないんだよ!」と反論されて、結局たじろになるのですが……でもエコーなコンクリート、ICT建機、スキャナー測量、3Dプリンター、高水圧下の地下技術だつて、オープンイノベーションにも取り組んで……いやそもそも、同じものを作るにしても、単品受注産業はすべて違うシチュエーションの下で苦労して、工夫して、新鮮な感動を感じながらモノづくりして、社会貢献しているんです。ですよね。

立命館大学出身として



北海道支部 上原直樹 平成十七年卒

理工学部環境システム工学科平成十七年卒業(琵琶湖草津キャンパス)の上原です。昔から絵を描く事と、物を作るのが好きで、十五歳〜二十歳まではデザイン専門学校でデザイナーになるべく、日々感性を磨いておりました。そんな私が工学の道へ進んだ理由は二つあります。一つは、専門学校時代の四、五年の時、環境デザインを専攻し勉強する中、ただデザインするだけではなく、デザインされた建物や街並みなどのように作られていくのか、その過程に興味を持った事、二つめに、専門学校時代に京都の修学旅行に行った際、街並みや雰囲気気に入って、京都に住んでみたい!(キャンパスは滋賀でしたが笑)と思った事が立命館大学との縁になりました。一日で琵琶湖をママチャリで一週した事など、ここでは書ききれない程の思い出があります。卒業後は大手サブコンに就職し、日本の最先端の建物が作られていく過程と、最新の設備のノウハウを目の当たりにし、かなり大変な思いはしましたが、工学の道に進んだおかげで、建設業特有の「やりがい」や「大きな達成感」を得ることができました。二〇一一年、東日本大震災の年に退社し、地元札幌に帰ってきてきました。十年ぶりの帰郷という事もあり、様々な人脈作りや奔走していたところ、校友会や建設会といった、立命館大学の集まりがある事を知りました。建設会をメインに参加し、情報交換や交流をさせていただきましたが、その中で、課題も感じておりました。私は今年で四十二歳となりましたが、私より若い建設会メンバーがいなくて、せっかくの活動がなかなか目につかない事です。三十代の前半から関わらせて頂いておりましたが、大学のOBと知り合う事ができる最大の魅力は、「同じ大学出身」という点で可愛がってもらえる!という点ではないでしょうか。普通に生活をしていけば出会えないような、偉大

な先輩と対話する機会をいただきたい、仕事に関わりそうな方を紹介いただけたら、本当に感謝しております。今年からは北海道校友会の幹事にも任命され、左記のような目標を持ってまいります。「建設会と校友会の連携による活動の活性化」、「活動内容の見直しと広報の充実化を図り、建設会・校友会共メンバーを増やす」この二点を力を入れていきたいと思っております。北海道で活躍する若手が悩んだ時、迷ったとき、仕事、私生活問わず頼る事ができ、同じ大学出身というだけかもしれないが、なんとも言いえない不思議な仲間意識がある、あの独特な雰囲気を感じながら北海道に根付かせ、立命館出身の仲間が活躍する事で、地元北海道が益々発展する、そんな未来を想像し、活動していければと思います。今回はこのような原稿を書く貴重な機会をいただき、ありがとうございます。

近況報告



和歌山支部 松下祐介 平成二十五年卒

私は平成二十五年三月に都市システム工学科を卒業しました。卒業後、和歌山県庁に就職し、今年で十年目になります。昨年度は政策研究大学院大学まちづくりプログラムへの派遣の機会をいただき、公共政策修士号を取得することができました。個人のスキルアップや業務に関係する分野の知識の取得が主な目的であり、「法と経済学」に関する基礎的理論を中心として、政策分析のためのミクロ経済理論、現実のデータから政策効果を読み解くための統計手法やその実践技術、まちづくり関連法を中心とする法的素養等を身につけることが大きな目的でした。

また、修士号の取得において、「津波防災地域づくり法」に基づく津波リスクの公表と区域指定の効果と和歌山県を事例として」というテーマの研究をしました。概要としては、津波浸水想定区域図の公表と津波災害警戒区域の指定が和歌山県における地価と人口移動にどうい

う影響を与えたかを、公示地価データと住民基本台帳データを用いて実証的に分析しました。地価に対する影響については、津波浸水想定区域では東日本大震災以降一貫して地価の下落傾向が続いており、津波リスクの公表と警戒区域の指定が地価を有意に下落させたという強いエビデンスは得られませんでした。具体的には、津波リスクの公表前後と警戒区域指定前後で有意な差が見られたかに着目し、差がないという帰無仮説の検定を行い、その結果、通常の一〇%基準では有意になりませんが、津波到達時間〇.5分の地域では東日本大震災後に帰無仮説の確率が低下しており、津波到達時間十五分及び津波到達時間三十分の地域では津波リスク公表後に帰無仮説の確率が低下しているという結果が得られました。したがって、津波リスクが非常に高い地域では東日本大震災後にリスク認知が進んだ可能性があり、また、中程度のリスクの地域(津波到達時間十五分及び三十分)では、東日本大震災後にはリスクがあまり認知されず、津波リスク公表後にリスク認知が進んだ可能性があるのではないかと考えられます。

この一年間の経験を活かし和歌山県の今後のさらなる発展に貢献していきたいと考えています。最後に、今後の立命館建設会の益々のご健勝・ご活躍を懸念いたしました。私の近況報告とさせていただきます。

迅速な災害対応



大分支部 前斐星矢 平成二十七年卒

私は、卒業するまでの四年間、滋賀県草津市にあるびわこ・くさつキャンパスで過ごしました。入学前

は知り合いが一人もおらず、初めての一人暮らしということもあり、不安しかありませんでしたが、蓋を開けてみれば、数多くの友人に恵まれました。特に、四回生では都市計画に関する研究室に所属し、まちづくりの大変さや重要性等を学ぶことができました。また、就職活動では、民間の大手ハウスメーカーの営業職と公務員試験を並行していたため、非常に慌ただしい時間を過ごしました。全国を転々とする仕事をしたい気持ちもありましたが、結果的には地元の大分県で働くことを決意しました。現在は、大分県の土木職員として、工事の発注や予算管理等の業務に携わっています。図面のチェックや積算等、不慣れた業務ばかりですが、素晴らしい先輩、上司に囲まれ日々勉強しています。特に印象的な業務は、災害対応です。近年は、過去のデータを大きく上回る豪雨や頻発する地震等、自然災害が絶えない状況です。災害が起きた際、土木職員は自ら現地調査、状況把握、現地測量・設計、災害査定、工事発注と短期間で数多くの業務をこなさなければならぬ過酷な時期となります。平成二十九年、私が所属していた土木事務所管内で、大型の台風により、道路の陥没や擁壁の転倒等、多数の災害が発生しました。私は、数えるのも嫌になるほどの災害の多さに、どこから手をつけたらいいのか分からず戸惑ってました。そのような状況の中で、周囲の上司や先輩らは、互いに声を掛け合い、現場調査を行ったり、情報収集をしたりするなど、困惑することなく迅速に対応を行っていました。その姿は、県民の安全や生活を第一に考える公務員としての鏡になっており、私も早くそのような職員にならなければと感じたことを覚えています。工事発注まで、先輩らと夜遅くまで業務を行っていたことは今でも思い出しています。

大分県の土木職員には、立命館大学卒業の方が数名います。他の大学の派閥に比べると、本当に小さいですが、立命館の先輩らの濃厚なキャリアはいつも励み?になっています。最近では、コロナ禍で定期会が開催出来ませんが、またあの楽しい夜

が来ることを心待ちしています。最後にありますが、近年は土木職員が不足しているという悲しいニュースを目にします。災害対応も含め、工事発注や膨大な予算の管理は本当にやりがいのある仕事です。ぜひとも土木という仕事の良さ・凄さがもっと広まり、皆様に関心を持っていただけるとうれしいです。今後ともよろしくお願ひします。

着任の挨拶



建築都市デザイン学科 講師 遠藤直久

今春より建築都市デザイン学科、構法計画研究室に着任致しました遠藤直久と申します。

私は京都に生まれ育ち、立命館中学・高等学校を卒業し、二〇〇〇年に立命館大学理工学部土木工学科を卒業、二〇〇二年に同大学院理工学研究科環境社会学修士課程を修了致しました。在学時には現在も所属されておられています平尾和洋教授のゼミナールにて建築意匠、設計プロセスを実施設計プロジェクトと同時に研究を行いました。当時、土木工学科及び環境システム工学科という環境の中で、現在の建築学科の先駆的な動きの中で土木の世界に触れながら建築を学ぶ機会を得て日々邁進しておりました。就学後は京都の建築及び店舗を主に扱う工務店にて現場管理、施工設計、施工積算に従事しました。加えて雇用主にそれまでの自身の経験を加味していただき、関係建築設計事務所やインテリアデザイン事務所での設計業務にも兼任する形で従事させていただきました。このような柔軟な処遇で働けたことは非常に有意義で特別な経験となりました。学生時代にC・アレクサンダー氏が提唱した言葉で、布野修司先生による研究の中で垣間見た「アーキテクトビルダー」という立場について心に留まっていたのもあり、一般的には分業されている業務を横断した独特のモノづくりに対する視界から自身の生業として方向性を見定める機会となりました。二〇〇五年に立命館大学理工学部建

築都市デザイン学科の助手に着任し、業務と同時に修士に行っていた設計プロセス研究の延長となる建築設計時の思考・発想プロセスの研究を進め平尾教授による多面でのフォローを手厚く頂き工学博士号の取得に至りました。

私が所属する構法計画研究室は今回新たな部門として、これから建築を担っていく学生たちにとっても重要なモノの作られ方Ⅱ構法を学び深める場として整備を進めております。日本は住宅を中心に木材を使用した建築が多くを占めている状況で近年中大規模の建築に適応可能な木造構法が示され前線にて実施及び開発が活発に行われ大きな変革が見られます。これら選択木造建築の集約と構法の可能性の探索及び新たな構法の開発を目指した研究に着手し進めております。環境的視点や現在のパンデミックによる社会の急激な変容から木材供給の見直しも性急さを増している状況で、木材利用の歴史深い日本であるからこそ散積した情報を整理し様々な判断に有用な知見を得ることを目指します。

非常に困難な生活状況の中、建築学生達に自身がモノに近いところにいる経験を十分に活かし、モノづくりの喜びを伝えることでより有意義な学びを得ることができるよう精進する所存です。今後ともよろしくお願ひします。

着任の挨拶



建築都市デザイン学科 講師 木村智

この春より、建築都市デザイン学科に着任し、景観・環境デザイン研究室を担当することになりました木村智(サトル)と申します。

ランドスケープ、建築論、西洋近代建築史を専門とし、博士課程ではエンジニア・アーキテクトの設計理念と鉄筋コンクリート技術史などについて研究を行いました。また、大教員に着任した後の社会貢献として、お祭りなどの地域イベントへの参加による地域活性化や、木造の空き家の耐震改修プロジェクトを通じ

立命館大学技術士会の活動内容の紹介とお願い

立命館大学技術士会は、平成 21 (2009) 年 12 月に立命館大学出身者で技術士資格を有する校友により設立され、現在の会員数は約 170 名となっています。

【活動内容の紹介】

- ①立命館大学理工学部卒業生への技術士受験指導を実施。結果、建設部門、上下水道部門、機械部門、総合技術監理部門に 30 名以上の技術士を輩出。また、技術士資格挑戦者への支援として、毎年 3 月より受験ガイダンスおよび受験講習会を 4 回実施。さらに、11 月以降で口頭模擬試験を数回実施。
- ②本学の教育活動に協力し、学園の発展に貢献。環境都市工学科の授業担当講師として、技術士制度および技術士資格を取得するための過程について講義し、将来受験する技術士第二次試験について、実際に例題を採り上げて解説。また、環境都市工学科の授業を活用し、1 年生には『めざせ！技術士』、同3年生には『立命技術士懇談会』と題して JABEE 制度や技術士の職務と役割について講義し、学生達に受験意欲の向上を促進。
- ③地域及び社会活動への技術的支援や未来の技術者への助言を発信。その一環として令和 4 年 1 月に『土木技術者が語る未来』～今、伝えておきたい技術者の心～と題して電子書籍を発売。立命館大学卒業生の土木技術者達の力作です。

【技術士会からのお願い】
★当技術士会の活動にご協力いただくためにも技術士資格取得者の方々には、当会に技術士資格保有情報をお知らせください。
★この度、当技術士会および本学支援活動をさらに向上させるため、『建設会会員の技術士資格に関するアンケート』を次頁に用意致しましたので、ご参照いただき、何卒ご回答のほどよろしくお願ひいたします。

令和 4 (2022) 年 6 月 立命館大学技術士会幹事会
事務局連絡先：
企画・窓口担当 E-Mail : rits.kikaku.mado@gmail.com
技術士会ホームページ : https://alumni.ritsumeijp/gijutsusikai/

私は千葉県野田市で生まれ、二〇〇七年に立命館大学理工学部土木工学科(平尾和洋研)を卒業後、二〇一一年までの四年間は意匠系設計事務所などで設計の実務に携わりました。そして、二〇一三年に横浜国立大学大学院都市イノベーション学府建築都市文化専攻修士課程を修了しております。在学中は吉田鋼市教授のもとで、西洋近代建築史や神奈川県下の歴史的建造物の実測調査に関わらせていただきました。その後は、京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程に進学し、二〇一九年には単位取得認定退学となりました。在学中には田路貴浩教授のもとで、日本風景史に関わる研究や、博士論文として提出したピエール・ルイジ・ネルヴィというイタリアを代表とするエンジニア・アーキテクトについての研究を行いました。その過程でミラノ工科大学建築学部留学などをして、技術と芸術を含意するアルテに着眼する研究方法論を確立しました。最終的にはネルヴィのアルテの内実を明らかにして、彼の設計理念についてまとめ、京都大学にて博士(工学)の学位を二〇二〇年に取得

しました。一方、二〇一九年からは大分県にある日本文理大学で助教としておりました。そこでは西洋建築史や建築計画を教えながら、県内の空き家の利活用についてのプロジェクトを行いました。別府市では元貸間をシェアオフィス兼展示スペースに、大分市では元米屋をシェアハウス兼指圧治療院への再生に関わることができました。それらの活動を通じて、地域資源を利活用して、社会問題と現代のニーズをマッチングさせるノウハウを学びました。さらに、二〇二〇年からは立命館大学歴史都市防災研究所の客員研究員として、空き家の利活用を通じた防災・減災計画についての研究も進めています。この度は母校である立命館大学に就任させていただき、大変嬉しく思っております。また、採用に関わられた先生方には心から感謝致します。今後は立命館大学の教員の皆様と協力して、さらなる母校の発展に向けて邁進して参ります。関わる学生達には自分が学外で得た経験を生かして、社会に羽ばたいていく手助けをして参ります。これからどうぞご指導やご鞭撻の程よろしく申し上げます。

事務局より

お知らせ

■会員登録データ

建設会会員名簿のもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、年会報の送付、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付致しました年会報に同封されている「会員登録データ」をご確認いただき、修正や変更等がございましたら建設会事務局までご連絡下さい。

■建設会総会と名簿の発行

新型コロナウイルス感染拡大にともない、2020年開催を予定しておりましたが第21回総会を一年延期いたしました。翌年もまだコロナ禍の収束が見通せない状況にありましたため2021年8月に書面にて開催いたしました。総会は原則2年に1度の開催ですので、次回は2023年秋の開催を予定しております。また、それにともない建設会名簿の発行も、従来通り総会開催年の年末(来年12月)発行を予定しております。

▶名簿お取扱いについて

名簿は、会員の皆様の大切な個人情報に掲載しております。名簿をお持ちの会員様は、その保管およびお取扱いには十分ご注意ください(転売厳禁)。

なお、ご不要になった名簿につきましては、お手数ですが焼却あるいはシュレッダー処分をしていただけますようお願い致します。

| | | |
|---------------|---|---|
| 建設会事務局 | 〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1 立命館大学理工学部都市システム系事務室内(担当:山元) TEL: 077-561-4911 FAX: 077-561-2667 | https://ritsumeij-kensetsukai.net E-mail: kenstkai@st.ritsumeij.ac.jp 会費払込郵便振替口座: 02 大阪 01080-1-884 |
|---------------|---|---|

※なお、8月11日~17日まで、大学一斉休暇となります。何とぞご了承下さい。

建設会会員の技術士資格に関するアンケート

立命館大学技術士会

【本アンケートの目的】

建設会会員の技術士資格保有の実態および JABEE 履修者（修習技術者）の技術士補登録状況を調査するとともに、二次試験受験希望者に対し受験指導の情報を提供することを目的とします。返信は同封されている返信用封筒にてお願いいたします。また、右の QR コードから web アンケートによるご回答も可能です。



◆ JABEE プログラムに関する質問です。(問 1～問 3)

問 1. あなたは JABEE プログラムを履修されていますか？ →①の方は問 2 へ

①はい ②いいえ →②の方は問 4 へ

問 2. あなたの履修された JABEE プログラムは以下のどれですか？

①土木工学科 平成 15 年 3 月～平成 27 年 3 月卒業

②都市システム工学科 平成 16 年 4 月～平成 27 年 3 月卒業

③環境システム工学科 平成 16 年 3 月～令和 4 年 3 月卒業

④環境都市工学科（環境 JABEE プログラム）令和 4 年 3 月卒業 →問 3 へ

問 3. あなたは技術士補の登録をされましたか？

①はい ②いいえ →問 7 へ

◆ 技術士一次試験に関する質問です。(問 4～問 6)

問 4. あなたは技術士一次試験を受験されましたか？ →①の方は問 5 へ

①はい ②いいえ →②の方は問 10 へ

問 5. あなたは技術士一次試験に合格されましたか？ →①の方は問 6 へ

①はい ②いいえ →②の方は問 10 へ

問 6. 技術士一次試験に合格された技術部門を教えてください。

技術部門： () →問 7 へ

◆ 技術士二次試験に関する質問です。(問 7～問 9)

問 7. あなたは技術士二次試験を受験されましたか？

①はい ②いいえ

指導技術士の下で技術士補として実務経験 4 年以上
職務上の監督者（技術者）の下での実務経験 4 年以上
実務経験 7 年以上 で受験できます。

→①の方は問 8 へ

→②の方は問 10 へ

問 8. あなたは技術士資格を取得されましたか？ →①の方は問 9 へ

①はい ②いいえ →②の方は問 10 へ

問 9. 取得された技術部門および選択科目をすべて教えてください。

①技術部門 () - 選択科目 ()

②技術部門 () - 選択科目 ()

③技術部門 () - 選択科目 () →問 10 へ

◆ 今後の技術士試験受験に関する質問です。(問 10～問 11)

問 10. 今後技術士試験を受験される予定はありますか？

- ①技術士一次試験を受験する予定
- ②技術士二次試験（技術部門）を受験する予定
- ③技術士二次試験（総合技術監理部門）を受験する予定 →①～③の方は問 12 へ
- ④受験予定はない →④の方は問 11 へ

問 11. 技術士や技術士補の受験予定がない方は主な理由をお聞かせください。

- ①時間の余裕がない
- ②勉強の仕方がわからない
- ③将来的に不要と判断している
- ④専門科目取得済みのため今後は不要と判断している
- ⑤その他（ ） →問 12 へ

◆ 以下、立命館大学技術士会に関する質問です。内容をご確認の上ご回答ください。(問 12～問 14)

立命館大学技術士会では、立命館大学卒業生に対して、技術士資格取得に向け筆記試験講座（年 4 回）および口頭模擬試験を開講しています（講座受講料各回 1,000 円）。講師は全て立命館大学の卒業生で各分野においてご活躍の方々です。受験する科目により専門講師による個別指導も実施しています。

★ホームページ：<https://alumni.ritsumei.jp/gjijutsusikai/>

問 12. 立命館大学技術士会をご存じでしたか？

- ①はい
- ②いいえ →問 13 へ

問 13. 立命館大学技術士会の受験講習会を受け、技術士資格に挑戦しようと思いませんか？

- ①はい
- ②いいえ →問 14 へ

問 14. 技術士・技術士補を取得されている方は立命館大学技術士会にご入会されませんか？

- ①入会を希望する
- ②入会を希望しない
- ③既に入会している

◆ ご自身の情報についてご回答ください。

ご記入いただいた情報は、立命館大学技術士会の入会希望者、技術士受験講習会の受講希望者への連絡についてのみ使用し、他の目的では一切使用いたしません。

[ご氏名]

[卒業年次] (西暦) 年

以下の項目は任意となります。立命館大学技術士会への入会希望者、受験講習会受講希望者は入力をお願いします。

[ご連絡先] ご住所：

メールアドレス：

電話番号：

～～ 以上でアンケートは終わりです。ご回答いただきありがとうございました。 ～～